田村市チーム 5 時間 13 分 07 秒完走 第27回ふくしま駅伝



▲大会終了後、県庁隣の公園で記念撮影。選手、スタッフ、関係者の皆さん、お疲れ様でした

第 27 回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会(ふくしま駅伝)が 11 月 15 日に開かれ、市町村を代表 する選手がしらかわカタールスポーツパーク陸上競技場をスタートし、県庁までの 95.1km の区間で健 脚を競いました。

今年の大会には53チーム、848選手が出場。田村市チームは、序盤は先頭集団から遅れたものの、 タスキを受けた後続の選手が徐々に順位を上げていきました。とりわけ、9区の岡田寿々花選手、12 区の村越直希選手、16区の吉田浩一主将が区間2位、13区の原瀬裕太選手が区間3位と好走。若い中・ 高校生も経験豊富な選手も実力を発揮し、後半は上位をキープして見せ場を作りました。結果は総合、 市の部とも6位入賞。昨年の5位より落ちましたが、安定した走りに、来年以降への期待が高まります。 各沿道には、のぼり旗を持った関係者や多くの市民が応援に駆けつけ、熱い声援を送っていました。



▲雨の中でも軽快に走る2区の鼡田選手 ▲力走する6区の戸澤奨選手





▲区間 2 位の快走、9 区の岡田選手

安定した走りで、全区間を好走!



▲二本松市街地を走る 12 区の村越選手



▲応援を受ける 13 区の原瀬選手



▲下り坂を走る 16 区の吉田主将

復興に向けて連携 復興大臣が来訪

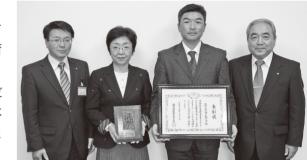


11月16日、高木毅復興大臣 と若松謙維 復興副大臣が市役所 を訪れ、冨塚市長と意見交換をし ました。冨塚市長は市の復興に関 する取り組みを説明し、復興庁の さらなる協力を要請しました。そ れを受けて高木大臣は、福島県と ともに協力すると答え、お互い、 復興に向けて連携していくこと を改めて確認しました。

大越小 父母と教師の会 社会教育関係功績顕著団体表彰

11月2日に福島県文化センターで開かれた福島県教育・文化関係表彰で、大越小学校父 母と教師の会が、子どもの健全育成に大きく貢献した功績が認められ、社会教育関係功績 顕著団体表彰を受賞しました。

11月10日、浅理友一会長と遠藤さ とみ校長が教育委員会を訪れ、助川教育 長に受賞を報告しました。浅理会長は「P TA活動は保護者と教師、地域を結ぶ役 割を担っている。子どもたちの健やかな 成長のため、これからも頑張りたい」と 語りました。

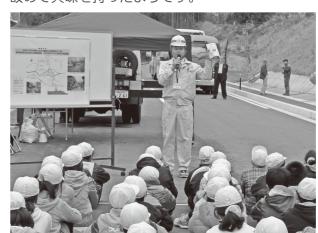


国道 288 号バイパス 開通を記念してロードアート

国道 288 号船引バイパス (1 工区) が 11 月 25 日に開通するのに先立ち、11 月 18 日、 船引小6年生約100人が現場を見学しました。福島県県中建設事務所鈴木所長と冨塚市 長があいさつしたあと、児童は道路の建設について説明を受けました。その後、新しくで

きた道路にチョークでロードアートを描き、工事 を請け負った三和工業㈱と福浜大一建設㈱から児 童に記念品が贈られました。

児童は、普段何気なく使っている道路について、 改めて興味を持ったようです。





No. 4